

内閣官房及び内閣法制局・内閣府本府入札等監視委員会

第13回会議議事概要

開催日及び場所	第13回会議 平成23年7月4日(月) 内閣府5階特別会議室
委員	委員長 國廣 正 (弁護士) 委員 今井 猛嘉 (法政大学大学院法務研究科教授) 委員 交告 尚史 (東京大学大学院公共政策学連携研究部教授) 委員 小林 麻理 (早稲田大学大学院公共経営研究科教授) 委員 長岡 美奈 (公認会計士)
議事	○ 平成22年度 第3～4四半期の契約に係る審議 ○ その他

○平成22年度 第3～4四半期の契約にかかる審議		
審議対象期間	平成22年10月1日～平成23年3月31日	
対象案件の説明	<p>○ 対象期間における契約の全体(内閣官房59件・内閣法制局3件・内閣府474件)について事務局から説明</p> <p>○ 審議案件の抽出の考え方について当番委員から説明</p> <p>抽出にあたっての関心事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 落札率の低い案件等については、予定価格が適正に積算されているか、また、事業が適正に履行されたかどうかを確認する ・ 競争方法が適正であったかどうかを確認する <p>さらに以下の観点から各案件を絞込み</p>	
審議抽出案件	5件	
【競争入札】 総合評価落札方式	(官)1件 (関心事項) 予定価格が適正に積算されているか、また、事業が適正に履行されているのか。	契約件名：国民ID制度等に関する諸外国の事例調査 契約相手：日本アイ・ビー・エム株式会社 契約金額：5,250,000円 契約日：平成23年1月11日 担当部局：内閣官房情報通信技術(IT)担当室
【随意契約】 企画競争	(官)1件 (関心事項) 企画競争への応募者が1者のみであったが、競争方法が適正であったのか。	契約件名：高分解能SAR画像判読教育訓練の委嘱 契約相手：株式会社パスコ 契約金額：20,265,000円 契約日：平成23年1月18日 担当部局：内閣官房内閣衛星情報センター

<p>【競争入札】 最低価格落札方式</p>	<p>(府) 1件 (関心事項) 予定価格が適正に積算されているのか。</p>	<p>契約件名：内陸地殻内地震の観測記録に基づく短周期レベルの分析業務 契約相手：株式会社構造計画研究所 契約金額：14,490,000円 契約日：平成22年10月4日 担当部局：内閣府原子力安全委員会事務局</p>
<p>【競争入札】 最低価格落札方式</p>	<p>(府) 1件 (関心事項) 予定価格が適正に積算されているのか。</p>	<p>契約件名：来訪者管理システム 契約相手：株式会社CIJ 契約金額：6,090,000円 契約日：平成23年1月14日 担当部局：内閣府大臣官房会計課</p>
<p>【競争入札】 総合評価落札方式</p>	<p>(府) 1件 比較対象(府) 1件 (関心事項) 2件はいずれも複数者応札しているが、全ての応札者の応札率が低いのはなぜか。予定価格が適正に積算されているのか。</p>	<p>契約件名：総合防災情報システム機器等賃貸借・保守業務 契約相手：株式会社日立製作所 契約金額：140,700,000円 契約日：平成22年10月4日 担当部局：内閣府政策統括官(防災担当)</p>
<p>【競争入札】 総合評価落札方式</p>	<p>また、総合防災情報システム機器等賃貸借・保守業務については、予定価格の根拠とした見積書と応札金額の差が大きいのはなぜか。</p>	<p>契約件名：災害情報の伝達方法・手段に関する調査等業務 契約相手：株式会社建設技術研究所 契約金額：4,410,000円 契約日：平成22年10月8日 担当部局：内閣府政策統括官(防災担当)</p>
<p>委員からの意見・質問 それに対する回答等</p>	<p>別紙のとおり</p>	
<p>委員会による意見の 具申又は勧告の内容</p>	<p>なし</p>	

別紙

意見・質問	回答
<p>1 国民ID制度等に関する諸外国の事例調査</p>	
<p>○応札は3者あったが落札価格は予定価格より大変低い、この金額でできるのかどうかということはチェックしているのか。</p>	<p>○総合評価落札方式の場合では必須項目があり、そこがクリアされていればできるという判断になる。</p>
<p>○落札業者と他の2者との間に価格のギャップがあったが、そういうヒアリングは行っているのか。</p>	<p>○応札した3者のうちの2者については、予定価格相当額で応札しており、予定価格の妥当性自体はそういう意味では検証されている。落札業者からも事前に見積もりをとっており、その見積額は予定価格相当額であった。したがって、落札した事業者が低価格で応札したのは、事業者の判断かと思うが、競争原理が働いた結果だと見られると考えている。</p>
<p>○予定価格の積算内訳に示された通りの能力の人工を働かせたが、ダンピングしたという理解でよいのか。 ○質は、技能かける時間に相当程度比例すると思うが、予定される質を効率よくやっていることはどこで確認できるのか。あとの2者に比べ落札業者が抜きんで優秀なのかどうかというところは、いま一つピンとこない。</p>	<p>○予定価格の積算は、能力と日数はこれぐらいは必要だろうと我々が判断して作成しているが、落札業者側で実際の専門性や、諸外国に有しているネットワークをうまく活用しながら、我々が求めるような体制を組んで応札してきたということは十分に考えられる。 ○調査結果の内容については、我々で相当する内容があるかどうかというものを最終的にチェックして問題ないかどうか判断をしていくことになると思う。落札業者はグローバルにこういうネットワークを持っていて、情報を持っているので、いろいろな経営資源を有効活用できるという環境下にあったということは言えるかと思う。</p>
<p>○調査案件については、予定価格を積算するに当たって、人工の見積もりの尺度、基準というものはあるのか。</p>	<p>○トータルで見ると部分が多いので、具体的な根拠、線引き、基準というものはない。</p>
<p>○概算見積もりと入札価格とに差が生じた要因を差支えない範囲で業者から任意で聞いてみたい。</p>	<p>○実態を調査して報告させて頂く。</p>
<p>○調査項目を見ると、法制度とか運用組織・体制、国民やマスコミの反応等を調べることになっているが、法制度とか国民やマスコミの反応といったものは現地語を話せる人が現地に行って調べないと意味がない。これだけの金額できちんとできたのか知りたい。</p>	<p>○現地の行政機関等に落札業者の現地法人の担当者が実際に出向いてヒアリングを行っている。落札業者は日本の会社ではない。諸外国の事務所は、基本的には現地の方が働いているので、結果として有効な調査活動が行われたのではないかと考える。</p>

2 高分解能SAR画像判読教育訓練の委嘱	
○この案件自体がものすごく特殊で、企画競争に参加する者はほかにどういうところが考えられるのか。	○最新の商用画像を扱っている国がドイツとイタリアにあり、この2つが主として競争相手になる。
○企画競争への提案応募者が1者しかなかったが、何らかの工夫が必要だったのではないか。	○応募可能な業者はほかに2者あったが、本事業は競争参加資格の等級が「AランクまたはBランク」であり、これらの者はいずれも「Cランク」であったため応募できなかった。今後この事業を行うとしたら、「Cランク」の業者にもこの事業の応募が可能なのかどうかということを踏まえたうえで、再度公告の打ち直すことなどが考えられる。
○思い当たる競争者が実質1者しかいないときに、水準を確保しなければいけないときに、企画競争という外形をとる意味がどれだけあるのか。透明性の確保が大事だと思う。競争が成立しない状況の中で、形として競争という形式をとっていればよしという話にはならないのではないかというのが我々の問題意識である。	

3 内陸地殻内地震の観測記録に基づく短周期レベルの分析業務	
○予定価格は応札者の見積もりを採用したということか。	○予定価格作成に当たっては、人件費、技術者、業務管理費、技術経費については国土交通省から提示されている積算基準の単価、それ以外については、一般的な積算資料などの単価で積算したものと、参考に頂いた参考見積もりを比較して、価格の安いものを採用した。
○最低価格落札方式なのに1者応札であるということと、落札リスクが100%であるというのが基本的な問題意識である。 ○9者ダウンロードしていると言うことだが、結果的に1者であったということの理由はどういうことが考えられるか。	○結果的にはそうだったが、公告をホームページに載せた際に、入札の説明資料及び仕様書を9者がダウンロードしている。このうちの数社についてはこの案件に応札できる資格を持っている、意欲があると判断しており、一般競争入札は有効だと思っている。 ○こういった業者というのは余り数が多くなくて、ほかの仕事を抱えると、ほかの業務に手を出せないという実態があるようだ。推察するに複数の仕事を請け負う大きな会社がないという感じである。
○参考見積もりを取る会社の基準は何かあるのか。	○基準は実績です。
○原則的には競争して最低価格の者が落札するということが必要だと思う。そういう意味でマーケットにもうちょっと聞くような、参入意欲を促進するような工夫した方がいいのではないかと思う。	○公告してから20日以上の間とか、そういう日数にも配慮しているが、実際には1者しかこなかった。

4 来訪者管理システム

○他の国の建物のシステムを構築した会社の見積もりが高いということは、同じようなシステムを他の建物では高い金額で買っているということか。

○内閣府でこのようなシステムを作ったらどれぐらいかかるかということで話を聞いているので、そこまでは聞いていない。

○このシステムのライセンスの解釈についてはどこに確認したのか。
○一応、自分でもチェックした方がいいと思う。

○落札した会社に確認している。

<p>5 ①総合防災情報システム機器等賃貸借・保守業務 ②災害情報の伝達方法・手段に関する調査等業務</p>	
<p>○総合防災情報システム機器等賃貸借・保守業務は、見積もりを取った業者が入札に参加したが、見積金額と入札金額との間にかかなり大きなギャップがあるが、それは何故なのか。</p>	<p>○業者は社内ルールにのっとり、過去の実績とかリスク分などを考えて積算して見積もりを出したと思うが、応札金額を見ると、他社との競争を考えられたこと、中でのいろんなやりくりを相当積み上げて絞られたことは推定できるが、それ以上のところは企業秘密的なところもあり、立ち入ったところまではわからない。</p>
<p>○見積もりを出すときには、リスク分などの不確定要素の部分が含まれて金額が大きくなっているが、説明会などを行って回避できる部分が見えてきた、それで下がってきたととらえていいのか。</p>	<p>○競争性の部分と相手の努力的な部分をどの程度見てやれはいいのかみたいなどころがあるような気がするが、今回のケースでいえば、恐らく今回は相当削り込んで対応されてきたんだろうと思う。予定価格を作成する際に、それをどこまで見るかということで、大変難しい問題だという認識ではいる。</p>
<p>○このシステムは今回の地震で役に立ったのか。</p>	<p>○3月末までは旧システムが動いていたので、旧システムで情報提供を行った。新システムは3月11日の震災の影響で実施計画を変更し、今、対応を一生懸命やっているところである。</p>

○その他

- ・「セルフネグレクト(自己放任)状況にある高齢者の幸福度に関する調査」について
について内閣府経済社会総合研究所から説明